



構造 134号線歩道より階段1mほど上がったところに20坪の敷地に二重のアーチ状の顕彰碑が建っている。現在鎌倉市の公園となっている。

- 9mと6mのステンレス製ロシア窓をイメージした2重アーチ
- 壁面にパヴロバ母娘3人の肖像レリーフと碑文がはめこまれている
- レンガを敷きつめた床面、大理石のベンチが設置されている

昭和57年12月パヴロバ・バレエスクール主宰・所有者ナデジダ・パヴロバ死去後相続者なく地主に600坪余りの土地返却し建物は取り壊される。昭和59年3月29日エリアナ・パヴロバ顕彰会発会、跡地に顕彰碑建設の基金を全国に募る。

昭和61年3月10日顕彰碑起工式

昭和61年12月18日除幕式

昭和62年3月18日鎌倉市納采許可

顕彰碑完成とともに隣接地に約8年間篤志家の私設「鎌倉パヴロバ館」が開設されていたが閉館となり転売され個人の住宅になるが顕彰碑と一体の景観を呈している。

大正8年(1919)、ロシア革命を逃れ日本に亡命したバレリーナ、エリアナ・パヴロバが母ナタリヤ、妹ナデジダとともに日本最初のバレエ・スクールを昭和初期この地に開設しバレエ界のリーダーとなる人材を数多く養成しました。

エリアナ・パヴロバは惜しくも昭和16年(1941)中支前線慰問に赴き客死しますが鎌倉市葬、靖国神社に祀られ、母妹とともに横浜外国人墓地に永眠。

昭和57年(1982)妹・ナデジダが没しバレエ・スクール解体後「エリアナ・パヴロバ顕彰会」が顕彰碑建設基金を全国に募りました。土地提供、設計、建設など各界協力を得て昭和62年(1987)「エリアナ・パヴロバ顕彰碑」完成。同時に平成初期にわたり篤志家により「鎌倉パヴロバ館」が開館されましたがやむなく閉館され、個人の住宅と変わるが顕彰碑と景観上一体となっています。遺品と顕彰碑を含む敷地は鎌倉市に寄贈。

「日本バレエ発祥の地」として地元「七里が浜町内会」は8月夏祭りの舞台でバレエを披露。「鎌倉パヴロバ会」は折々記念展開催、顕彰碑・墓地清掃など活動をしています。

国道134号線沿い、前面に相模湾の伊豆半島と三浦半島、富士山、江ノ島が一望する絶景にあります。ロシアとのかけはし・パヴロバ母娘をしのぶにふさわしい環境です。

昭和62年5月発行『橋 秋子記念財団会報』特別号より

「歴史と未来を象徴」ー七里ヶ浜に白く輝く二重アーチ

日本のバレエの堂々たる歴史と輝く未来を象徴して、はるかに太平洋を望む。

(2018年9月現在)

Gallery

写真上 顕彰碑パヴロバ母娘レリーフ
写真中(左) 顕彰碑・碑文
写真中(右) パヴロバ母娘
写真下 パヴロバ・バレエスクール全景

